

令和元年度大学コンソーシアムとちぎ 学生活動支援事業 報告書

機関名	宇都宮大学
団体等名	宇都宮駅おもてなし隊
学生代表者氏名 (所属・学年)	白毛 夏美(国際学部・2年)
責任教職員氏名	栗原 俊輔(国際学部 准教授)

1. 事業名	JR宇都宮駅でのインバウンド(外国人観光客)おもてなし
2. 実施時期	毎月1~2回
3. 実施場所	JR宇都宮駅構内およびその近隣
4. 事業の内容等	<p>JR宇都宮駅構内にて学生が日本文化をテーマに企画・進行し、外国人観光客との交流イベントを行った。夏には「父の日イベント」と題して折り紙体験を行った。秋から冬にかけては「日本の昔遊び」を楽しんでもらいたいと、福笑いとかルタを実施した。これらのイベントの際には、日本語のわからない外国人観光客のために、英語やスペイン語、中国語などでポスターを作成した。また、遊びのルールなども学生がさまざまな外国語を使って説明した。</p> <p>11月にはJR宇都宮駅の協力のもと、避難訓練の実施と、外国人観光客対応の向上化にむけたミーティングを重ねてきた。日本語が得意でない宇都宮大学の外国人留学生に災害時の避難誘導を体験してもらって意見を聞くとともに、日本人学生らも誘導時のアナウンスやピクトグラムへの文化的な配慮について議論を交わした。</p> <p>また、JR宇都宮駅の周辺の魅力を知ってもらうことを目的に、若山農場や那須烏山市の烏山製茶工場などを日本人学生と外国人留学生とで訪問。竹林の美しさ、日本の地紅茶のおいしさをはじめとした「外国人から見た栃木の魅力」を確かめた。</p>
5. 事業の成果と今後の課題	<p>イベントを通じては、外国人観光客が宇都宮での滞在をより充実させるとともに、学生が大学で習得した外国語を運用する挑戦の場でもあった。外国人観光客に日本の遊びや魅力をうまく説明できない現実に対し、学生のそれぞれが語学習得に積極的に取り組み、さまざまな工夫を凝らしてイベントの準備に取り掛かった。また、イベント交流の思い出を持ち帰ってほしいという思いで、本活動支援をもとに和柄の折り紙作品やキャラクターシールなどを記念品として用意したところ、日本らしさを感じられるものを貰えて嬉しいと大変好評だった。</p> <p>JR宇都宮駅職員との連携においては、栃木県の魅力をどう発信して観光客増加を図るか、どのようにすれば安全で快適に宇都宮滞在を実現させられるかについて繰り返し議論した。これらの議題に対して有効な学生活動を進めていくことが目下の課題となっている。</p> <p>そしてまた、今年一年の活動成果を写真パネルとしてまとめた。春以降、宇都宮大学の内外に向けて、外国人観光客誘致の可能性と栃木の魅力を広く発信していきたいと考えている。</p>



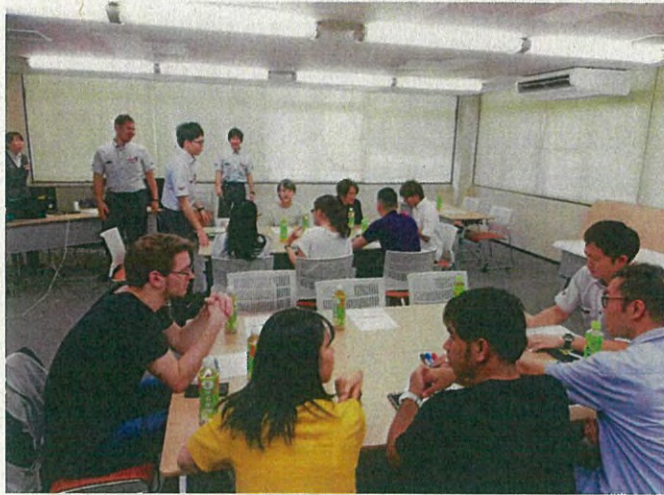
(手作りの英語カルタでおもてなし)



(はじめてのカルタを楽しむ外国人観光客)



(避難訓練の様子)



(JR 宇都宮駅職員と学生の意見交換)



(福笑いに興味を示す外国人観光客)



(日光線を走行するいろは車両の見学)



(烏山製茶工場での地紅茶試飲)



(竹林に囲まれた若山牧場を訪問)